

令和2年度農業試験場で実施している研究等一覧

【栽培部】

研究テーマ（実施年度）		研究概要
競争力アップ技術開発 ①冬季スプレーギクをボリュームアップする生長制御技術の開発 (R元～3)		LED等の新光源を用いた光照射によるボリュームアップ技術を開発する ・暗期中断終了後の光照射による切り花品質向上技術の開発 ・新規電照法に基づく栽培技術体系の最適化 ・光照射による切り花品質向上技術の効果実証
競争力アップ技術開発 ②イチゴ「まりひめ」高設栽培における栽培期間を通した高品質安定生産技術開発 (R2～4)		安定した良食味を維持するため、環境データに基づく施設環境制御による栽培技術を開発する ・環境制御技術の開発 ・草姿管理技術の開発
競争力アップ技術開発 ③イチゴ新品種「紀の香」の優良苗生産技術の開発 (R2～4)		優良苗生産の弊害となっているランナー先枯れと不時出蕾を防止する技術を開発する ・ランナー先枯れ対策技術の開発 ・不時出蕾発生対策技術の開発
基礎研究 ④次世代の野菜・花きの新品種素材の育成 (H28～R2)		良食味で炭疽病に強いイチゴや、茎葉が強固で秀品率が高いスプレーギクを育種するための優良な育種素材やシステムを作出する ・炭疽病耐病性、高品質、多収なイチゴ優良系統 ・茎葉が強固で花持ちが良い夏秋型スプレーギクの優良系統
⑤水稻奨励品種決定調査 (H29～R2 継続)		高温登熟性に優れる高品質・良食味品種を選定する ・県奨励品種決定のための特性調査 ・新奨励品種の栽培試験 ・原原種、原種の維持更新

【環境部】

競争力アップ技術開発 ⑥キヌサヤエンドウのハナアザミウマ防除対策 (H30～R2)		サヤエンドウのガク枯れや白ぶくれ症の原因となるハナアザミウマの効率的な防除方法を確立する ・薬剤防除技術の確立 ・耕種的、物理的手法を利用した防除技術
競争力アップ技術開発 ⑦砂地圃場における高品質ショウガ生産技術の開発 (R元～3)		露地砂地圃場での種ショウガ施肥技術とハウス砂地圃場における高品質新ショウガ生産のための効率的施肥技術を確立する ・種ショウガ生産…栽植密度、施肥量、効率的施肥法、生産性 ・高品質新ショウガ生産…養分動態の把握、効率的施肥法
競争力アップ技術開発 ⑧採種えんどうの害虫エンドウゾウムシの防除対策 (R2～4)		エンドウ種子生産現場ではエンドウゾウムシの食害が発生しているため、防除対策を確立する ・エンドウゾウムシの発生実態の解明と有効薬剤の探索 ・エンドウゾウムシの防除適期の解明
競争力アップ技術開発 ⑨エンドウさび病の発生生態の解明と防除対策の確立 (R2～4)		効率的な防除体系の構築に繋げるため、病原菌の発生生態や有効薬剤を明らかにする ・エンドウさび病の発生状況調査と発生生態調査 ・エンドウさび病の有効薬剤の探索
基礎研究 ⑩農耕地のモニタリング調査 (H28～R2 継続)		県内の主要な農耕地土壌の理化学性、営農状況を継続調査して、土壌管理上の問題点を明らかにし農業生産の安定を図る ・農耕地の土壌実態調査 ・土壌管理実態調査
消費・安全対策交付金 ⑪特産農作物病害虫防除 (H27～R3 継続)		本県の基幹農作物の安定生産と安全性を確保するために必要な病害虫防除技術を開発する ・薬剤抵抗性病害虫の発生状況調査の手法確立 ・農薬に頼れない難防除病害虫の管理手法の確立 ・県特産農産物(マイナー作物)の農薬登録拡大
農作物病害虫防除所:植物防疫事業交付金 ⑫病害虫発生予察・発生状況調査 (H30～R2 継続)		病害虫発生予察情報を提供するとともに、早急防除が必要な場合は警報・注意報を、新規病害虫発生の場合は特殊報を発表する ・病害虫の発生動向調査 ・病害虫の診断同定
農林水産省委託事業 ⑬農地土壌炭素貯留等基礎調査事業 (R元～4 全国調査)		農地土壌をCO2の吸収源として利用することにより、温室効果ガス削減を図る ・県内農耕地の炭素貯留量調査 ・有機物連用による土壌炭素貯留効果